

山形市野草園からのお知らせ



秋を代表する《萩》 万葉の時代から日本人に親しまれている花

- ① ヤマハギ (山上憶良の歌の秋の七草の“ハギ”はヤマハギを指すと言われています)
- ② ツクシハギ (花卉の周辺などが白いので、花全体は白っぽく見えます)
- ③ ミヤギノハギ (赤紫色が濃く美しい花です)
- ④ シラハギ (白い花を咲かせミヤギノハギの変種ともいわれています)

どんな花を見ると秋を感じるでしょうか。《萩の花》は古く万葉の昔から日本人に親しまれ、秋を代表する花です。大きな花ではありませんが、近づいて手に取るようにしてみると、その色合いと形に魅了されます。ハギはマメ科の植物、左右対称で蝶のような特徴的な花の形(蝶形花:ちょうけいか)をしています。「七草の庭」で数種類のハギを見ることができます。

「七草の庭」では、9月後半、多いときは200頭以上の「渡り蝶 アサギマダラ」がフジバカマ周辺を飛び回ります。また、サラシナショウマには、一つの花序に何頭もの蝶が並んでとまったりします。ハギの花だけでなく、蝶の群舞する秋の風景も楽しむことができます。

優しげに咲く秋の花、群舞する蝶を見に、野草園にいらっしやいませんか。

9月後半のイベント

◆【東北南3県ボタニカルアート作品展】

○日時 8/30(日)~9/27(日) 9:00~16:30 9/27は15:00まで

○場所 自然学習センター

○内容 ボタニカルアート愛好者の作品約140点を展示、杉崎文子氏が描いた世界に一本の貴重なミヤマカスミザクラの作品も展示

◆【第27回野草園の魅力を探る写真コンテスト作品募集】 9/15(火)~10/2(金)

詳しくは野草園のホームページをご覧ください。

◆新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、9/21(敬老の日)の65歳以上無料開放を中止し有料入園になります。

◆◆◆野草園の9月後半に見られる主な花たち◆◆◆



フジバカマ (キク科)

本州の関東地方以西、四国、九州の土手などに自生する多年草です。奈良時代に中国から渡来したものと考えられています。葉は短い柄があって対生し、長楕円形~長楕円状披針形でふつう3深裂します。頭花は淡紅紫色で5個の筒状花があります。秋の七草のひとつですが、野生は少なくなっています。



サラシナショウマ(キンポウゲ科)

落葉樹林内や草原などに生える多年草です。茎の先に総状花序を出し、柄のある白い小さな花を密につけます。花には両生花と雄花があり、萼片は楕円形で早落ちします。「晒菜升麻」の名の由来は、若葉をゆでて水でさらして食べたことによります。根茎は肥大し、乾かしたものは生薬の升麻であり、解毒・解熱剤などに使用します。



アケボノソウ(リンドウ科)

山野の湿り気のあるところに生える2年草で、茎は直立して枝分かれます。葉は対生し、形は披針形です。合弁花ですが、白い花は深く5裂し、ほとんど離弁花に見えます。裂片には黄緑色の蜜腺溝が2個と黒紫色の斑点が多数あります。「曙草」の名は、花の色を明け方の空に見立て、斑点模様を夜明けの星々に見立ててつけられたと言われています。



オケラ(キク科)

日当たりのよい乾いた草地に生える多年草です。花を囲む苞葉が魚の骨を並べたような形をしています。葉はかたく、縁に細かな刺状の鋸歯があるのも特徴です。若芽のうちはやわらかく食用にされます。根は胃の薬として使われます。古名のウケラの訛ったものが、名の由来といわれています。



シュウメイギク(キンポウゲ科)

庭に植えたり、人里近くの林縁などに生える多年草です。古い時代に中国から入ってきた栽培品で中国では秋牡丹といわれていました。秋に菊によく似た花をつけることが名の由来です。しかし、本種は菊でも牡丹でもなく、英名の「ジャパニーズアネモネ」が示すとおり、秋咲きのアネモネそのものです。



ウメバチソウ(ニシキギ科)

山野の日当たりの良い湿地に生える多年草で、10～40cmの細い花茎を直立し、白色の5弁花を1個付けます。雄しべが5個、花粉を出さない仮雄しべが5個あり、先が糸状に12～22裂しています。花茎に付く葉は柄がなく心形で花茎を抱えています。花の形が梅鉢の紋に似ていることが、名の由来です。



タムラソウ(キク科)

山地の草原などに多い多年草で、葉は互生して羽状に深裂します。枝先にアザミに似た花をたくさんつけます。葉もアザミに似ていますが、刺はなくやわらかい葉です。頭花は紅紫色で上向きにつき、総苞は鐘形で、花柱の先がふたつに割れて反り返る特徴があります。



ヒガンバナ(ヒガンバナ科)

人里に近いところに群生する多年草です。ラッキョウ型の鱗茎が地下にあり、外皮は黒色です。秋の葉がない時に鱗茎から茎を1本出し、その先に有柄の花を輪状につけます。花被は6片で細長く外側に反り、へりは縮れています。雄しべ6本と雌しべが1本長く出て花被と同色です。秋の彼岸頃に花が咲くことが名の由来です。



台湾ホトトギス(ユリ科)

沖縄県西表島、台湾などの亜熱帯地域の山地や森林の湿った場所に自生し、高さ30~50cmになります。斑点が入る花を鳥のホトトギスの胸の模様に見立てたことが、名の由来です。園芸用に品種改良されたものが多く栽培されていますが、本種は台湾ホトトギスと本州・四国・九州に自生するホトトギスの交雑種と思われます。



エゾリンドウ(リンドウ科)

福井県以北の山地帯から亜高山帯の草地などに生える多年草です。茎の中・上部の葉は対生、まれに3枚輪生します。青紫色の花は茎の先や葉の腋につけ、筒状鐘形で5裂します。切り花用に栽培され、さまざまな改良型がみられます。高山型で、主として茎頂のみに花をつけるものをエゾオヤマリンドウといいます。



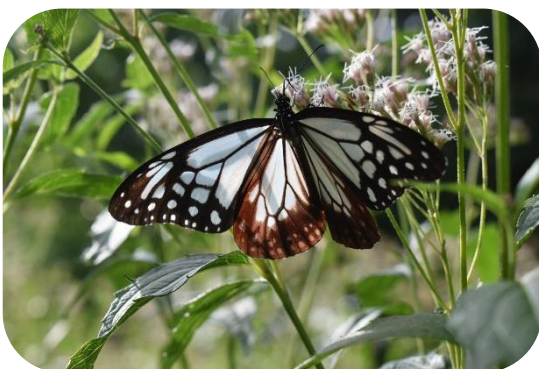
リンドウ(リンドウ科)

秋の山を代表する多年草で、根茎は細く葉は緑色で、縁は細突起があってややざらつきます。茎の頂きまたは上部の葉のわきに青紫色の花を開きます。花は鐘状で5裂し、裂片の間にはさらに副裂片があります。エゾリンドウが湿地に生えるのに対して、本種は山野に生えます。



センニチコウ(ヒユ科)

古く日本に入ってきた園芸用の草花で、熱帯地方原産の1年生草本です。茎の先に長い花茎を出し、その先に1個の球状の花をつけます。花は色のついた翼のある2個の小苞に包まれた多数の小花からできていて、小花は普通紅色、まれに淡紅色、または白色があります。花が長持ちすることが、名の由来です。



フジバカマ(キク科)

アサギマダラ(タテハチョウ科)

9月後半暑さがすっかりやわらいでくると、フジバカマの花にアサギマダラが集まってきます。9月初めの頃より飛来頭数は少しずつ増えてきています。ピークは秋分の日頃で、去年は最高で200頭飛来しました。さて今年は何頭飛来するのでしょうか。